

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成30年6月21日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科内科学講座臨床免疫学

職 名・学 年 助 教

氏 名 村 上 孝 作

助成の種類	平成30年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	2018年欧州リウマチ学会年次集会(EULAR2018)		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	OBESITY AS ONE OF THE COMMODITIES WAS THE ROBUSTEST PREDICTION FACTORS FOR POST THERAPEUTIC CLINICAL REMISSION OF RHEUMATOID ARTHRITIS WITH SHORT DISEASE DURATION - RESULTS FROM KANSAI CONSORTIUM FOR WELL-BEING OF RHEUMATIC DISEASE PATIENTS		
開催場所	オランダ アムステルダム		
渡航期間	平成30年6月9日 ～ 平成30年6月16日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> +無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	300,000 円	
	使用した助成金額	300,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳	学会参加登録料	約10万円
		渡航費、滞在費	約20万円
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今回の助成を受けさせていただき、大変にありがたく思います。助成金額も妥当なものと考えます。		

成 果 の 概 要

医学研究科 村上 孝作

【学会の概要】

学会名：2018 年欧州リウマチ学会年次集会 (EULAR2018)

開催地：オランダ アムステルダム

開催期間：2018年6月13日～16日

【学会内容】

欧州リウマチ学会 (EULAR) は毎年1回6月に欧州いずれかの国内で開催されるリウマチ学に関する学術集会である。集会では、関節リウマチをはじめとした関節炎や全身性エリテマトーデスなどの膠原病について、臨床研究、基礎研究どちらの分野からも最新の成果が発表される。規模は非常に多く、世界各国から16000名以上が参加した。これは、毎年秋に開催されるアメリカリウマチ学会総会 (American College of Rheumatology) に匹敵する規模といえる。

参加者はリウマチ学を専門とする医師であるが、コメディカルも数多く参加する。さらに、リウマチ性疾患に罹患している患者 (People with Arthritis and Rheumatism, PARE) が参加し、一会場を4日間通じて患者同士が行うクオリティーの高いセッションがあることも大きな特徴である。

EULAR Congressでは、例年、各種疾患における診断・治療のガイドラインやリコメンデーションが発表されることが多い。本年も、全身性エリテマトーデスの新しい分類基準やANCA関連血管炎の各病態 (顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症) の診断基準が改定されたことが大きなトピックとなった。さらに、全身性エリテマトーデスの治療開発についての発表が多く、疾患制御への期待が膨らむ成果が多かった印象である。

【発表内容】

私は、6月14日木曜日にポスター発表を行った。発症3年以内の関節リウマチにおいて臨床的寛解達成に影響する臓器合併症を、関西多施設の関節リウマチ患者コホート (ANSWERコホート) を用いて検討した。関節リウマチは、最近の治療の進歩に伴って臨床的寛解を達成する患者が増加することとなったが、中には早期であっても治療に奏功せず、関節痛・関節炎が持続する症例が存在する。そのリスク因子を抽出することを研究の目的とした。結果として、解析対象の753例中、1年後のCR (臨床的寛解) 非達成群は273例 (36.5%) であり、CR非達成について統計学的に有意 ($p < 0.05$) かつ独立した予測因子として、初診時CR非達成 (OR 14.5, 95%CI 2.50 - 84.5)、発症年齢 (OR 1.02/歳, 95%CI 1.01 - 1.04)、虚血性心疾患 (OR 10.0, 95%CI 1.26-79.43)、肺疾患 (OR 2.86, 95%CI 1.24 - 6.62)、肥満 (BMI28以上, OR 2.80, 95%CI 2.30 -6.04)、アレルギー性疾患 (OR 0.45, 95%CI 0.22 - 0.93) が抽出された。すなわち、臓器合併症、特に肥満の有無が臨床的寛解の達成に影響している可能性が示唆された。

このポスター発表を行う当日に、はからずも "Why does BMI matter?" と題したセッションが行われ、興味深い発表が行われていた。関節リウマチ患者における肥満の制御が重要であることが再認識された。

ポスター発表では、数多くの質問をいただくことができた。特に、なぜ肥満の場合に関節リウマチが増悪するのか、という疑問が多かった印象であった。近年、腸内細菌が生体内の代謝系のみならず免疫系に影響を及ぼすことが明らかとなっていることや、脂肪組織・脂肪細胞が炎症の遷延に影響をしているのではないかとの意見を頂戴することができた。

なお、オランダは私が5年前に留学で研究を行っていた国であり、会期中に当時のSupervisorとミーティングを行うことができた。今回の発表を足がかりにして、関節リウマチにおける代謝性疾患や脂肪組織、脂肪細胞との関連について研究する意義を明確にすることができた。

【謝辞】

今回、EULAR2018への参加、研究成果の発表は貴重な経験となりました。このような機会を与えてくださった京都大学教育研究振興財団に心より御礼申し上げます。